

令和5年 1月29日

瀬戸内市議会議長

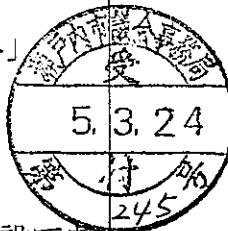
廣田 均 様

瀬戸内市議会議員 河本 裕志

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期 間	令和5年 1月 23日 ~ 令和5年 1月 24日
研修会名	公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 市町村議会議員特別セミナー
開催場所	全国市町村国際文化研修所
研修目的・ 内容	<p>目的①：日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められている。</p> <p>福祉をテーマに各分野の先生の講演から、わが町の現状を見直し、今後の未来と地方議員に求められる役割について学ぶ。</p> <p>1月23日（月）研修1日目</p> <p>① 講義 「ベーシックサービス宣言～分かち合いが変える日本社会～」 講師：慶應義塾大学 経済学部教授 井手 英策氏</p> <p>誰ひとり取り残さない事の難しさ、政治の果たす役割、責任の重さを知った。地方議員として市民の声を国へ届ける事が大切（法整備は、国会）と痛感。</p> <p>② 講義 「一人一人の個性を尊重する「あおいけあ流」の介護の世界」 講師：株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相氏</p> <p>介護の実態と現状を分かり易く事例を通しての講義であった。 高齢者を管理するための施設ではなく、一人一人に寄り添った施設であるべきと痛感した。そのためには、従事者の人数、賃金など働きやすい環境整備が必要で、法的支援も必要と感じた。</p>



	<p>1月24日（火）研修2日目</p> <p>① 講義「ヤングケアラー支援の課題と支援のあり方」 講師：一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事 日本女子大学名誉教授 堀越 栄子氏</p> <p>事例・統計を含めヤングケアラーの現状と課題が学べた。 ケアラーも一人の人格として、学校・地域・福祉関係者が個別相談に乗ることが大切だと感じた。</p> <p>もっと関わり合いを持てる体制が大切で、ケアラーも生きる・学ぶ・就職などの権利・尊厳があり、法的整備の重要性を感じた。</p> <p>② 講義「ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割」 講師：ジャーナリスト/特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会 連合会広報担当理事 池上 正樹氏</p> <p>ひきこもりは本人だけでなく家族（親兄弟）にも相談に乗ることが大切だと感じた。</p> <p>支援対象者との信頼関係が築けないと真意を理解できないと思った。 行政の場合、担当者が代ることがあるので信頼関係の構築が厳しい。 8050問題も含め、きめ細かい相談・関わり体制が必要だと思った。</p>
<p>所 感</p>	<p>・今回の研修は、いかに地域・行政（社協も含む）がきめ細かい関わりを長期に渡り構築できるかにかかっていると感じた。</p> <p>そのためにも、議員が間に入り、支援体制・組織づくり・人員確保・財政支援など法整備も含め支援することにより、支援を必要とする方の権利と尊厳が守れる事を実感する研修であった。</p> <p>・まず身近な地域から少しずつ関わりを持とうと思った。</p>